



畑で汗を流す西村さん親子。いい笑顔です

親子の深い絆と頼もしい後継者

朝早くから、畑のハウスのビニール掛けに精を出していたのは、西村幸人さん(52)と長男の大樹さん(25)親子です。これから、メロンやスイカの苗作りが始まります。

まぶしい汗を光らせる大樹さんは、熊本農業大学卒業後に就農しました。「この地区で20代で就農しているのは私だけ。後継者不足が心配されますが、農業の楽しさを伝えていきたいです」と話す大樹さんが目標とするのは、父親の幸人さん。優しくて穏やかな人柄の幸人さんは、息子の成長ぶりに目を細めます。子宝に恵まれた幸人さんと妻の



ハウスのビニール張りは力のいる仕事です

充希子さん(48)には、4人の子どもがいます。長男の大樹さんと23歳の次男、長崎の大学に通う20歳の長女、そして熊本地震後に生まれた夏妃ちゃん(4)です。充希子さんは、44歳での高齢出産に挑んだというわけです。

「16年ぶりに授かった命でした。この年での子育ては体力が要りますが、息子や娘たちが自分の子のよ



西村家の天使、夏妃ちゃん。愛情いっぱいに育っています

うにかわいがつてくれています」と充希子さんは顔をほころばせます。家族の愛情がたっぷり注がれた夏妃ちゃんは、すくすくと育っています。

郷愁を誘うハーモニカの音色

「毎朝6時半、田崎店の横に集まるグループのメンバーと『ラジ体』し、それから少し歩いて、夕方は自転車で15キロほど走るのが日課」と話すのは、江藤秀樹さん(84)です。

これまで長きにわたり750回以上のボランティア活動を続けてきました。その活動をたたえて「熊日緑のリボン賞」や町民表彰が授与



自宅の庭でハーモニカの音色を聞かせてくれた江藤さん



江藤さん愛用の、キーの違う5種類のハーモニカ

されています。とても元氣な江藤さんが得意とするのが、ハーモニカ演奏です。使用するハーモニカは5種類。それぞれキーが違い、曲によって使い分けるそうです。

聞かせてくれた曲は「南国土佐を後にして」。冬の日だまりに流れる優しい音色に、心が温まりました。

地域ににぎわいを

東無田地区の隣、西方に広がる櫛島地区。九州縦貫自動車道の高架下をくぐった先に見えてくるのが「熊野坐神社」です。嘉島町の「浮島熊野坐神社」の末社で、大永年間(1521~1528)に、集落の守り神として迎えたと伝わり、氏神様としてあがめられています。

春になると境内にはサクラが咲き誇り、花見をする人の姿でにぎわったようですが、地震後、そういった光景も少なくなり、コロナ禍にある今はなおさらです。

「地域を元気にしよう」と消防団を中心とした仲間と活動しているのが、古荘直樹さん(47)です。被災直後は、「櫛島ベース」を結成し、手分けして支援物資を集めたそうです。古荘さんは、「地震は、自分が生まれ育った櫛島を「一から見直すきっかけになりました」と話します。